

## 調査の概要

### 1. 調査の方法と内容

各都道府県並びに政令都市教育委員会、各都道府県私立学校担当箇所、所管する高等学校の海外修学旅行並びに修学旅行以外の海外研修の実施状況について調査を依頼し、以下のとおりまとめた。

なお、岡山県（公立）、東京都・福岡県（私立）の実施状況については本協会の独自調査によった。愛知県の私立学校に関しては、愛知県私立中学高等学校協会の協力を得た。

- (1) 調査の期日 平成 19 年 5 月 1 日現在
- (2) 調査対象 各都道府県並びに政令都市教育委員会、各都道府県私立学校所管部署と、新たに政令市(2007 年 4 月 1 日)となった新潟市・浜松市を調査対象に加えた。
- (3) 調査事項
  - イ．平成 18 年度海外修学旅行の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、訪問国
  - ロ．平成 18 年度海外研修の実施校数、研修内容、研修先国名、参加生徒数、実施時期
  - ハ．国内航空機利用修学旅行の実施状況
  - ニ．平成 19 年度修学旅行の実施基準
  - ホ．平成 18 年度国内修学旅行方面別実施状況

### 2. 集計及び区分け等

- データは各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各道府県私立学校所管部署からのデータを集計し、一部本協会の調査データを加えた。
- 海外修学旅行・海外研修とも都道府県の実施校数・参加生徒数は出国数をベースとし、訪問国別集計では延べ数でカウントした。

訪問国は、旅行という観点から大陸区分によったが、グアム・サイパンは北アメリカに、ニューカレドニアはオセアニアに、モルディブは東南アジア、ネパール・バングラディッシュ・インドは南アジアに区分した。ガラパゴスは国名(エクアドル)より一般的なため、その表示のままとした。集計上、南アジアは東南アジアに含めた。
- 海外研修は 3 ヶ月未満の学校が主催する語学研修、ホームステイ、教科の特性を生かした実習・研修、姉妹校交流等をまとめ、研修内容の区分は本協会独自の仕訳によった。
- 国内方面別実施状況は、クラス別・班別及び課程別での実施や複数方面にまたがる場合も 1 校として集計のため、設置校数・生徒数と一致しない。

中学校は県によってデータは把握が困難なため参考数値として集計した。

## 調査の結果概要

### 1. 平成 18 年度海外修学旅行の実施状況

(1) 全国の動向

- 実施校数・旅行件数、参加生徒数とも前年より増加。
- 訪問国は、韓国以外は増加。中国の伸びが著しい。中南米への訪問がはじめて見られた。

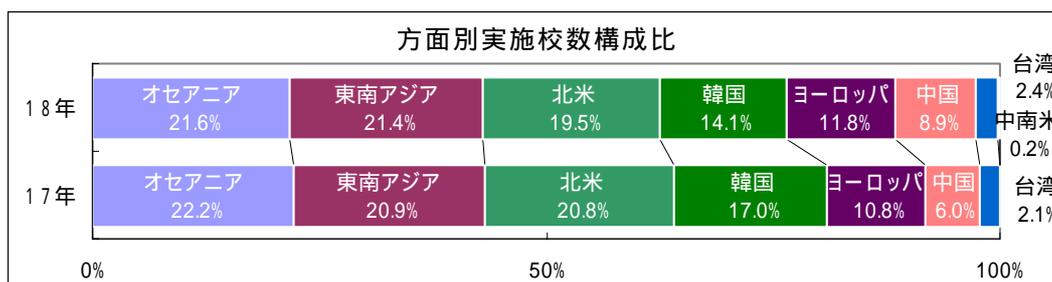
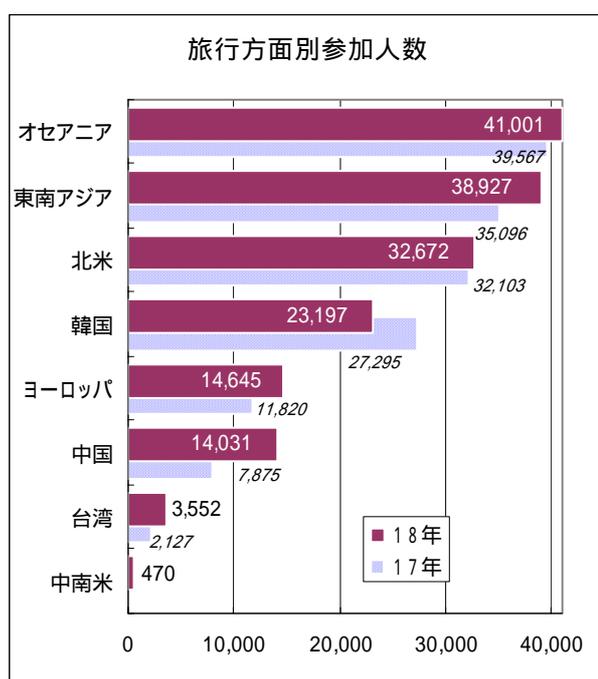
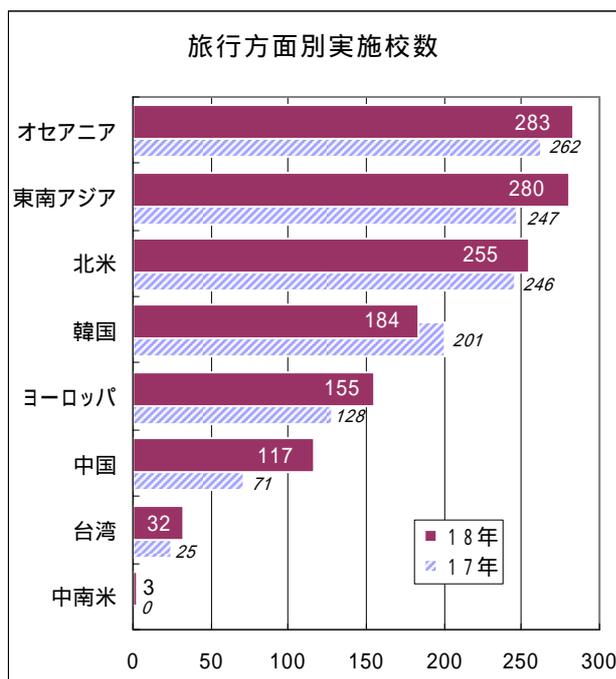
全国で 933 校(公立 454 校・私立 479 校)が実施し、148,521 人(公立 67,714 人・私立 80,807 人)の生徒が参加した。公立高校では 11.2%、私立高校では 36.2%の実施率であった。

旅行件数は 1,156 件(公立 477 件・私立 679 件)であった。

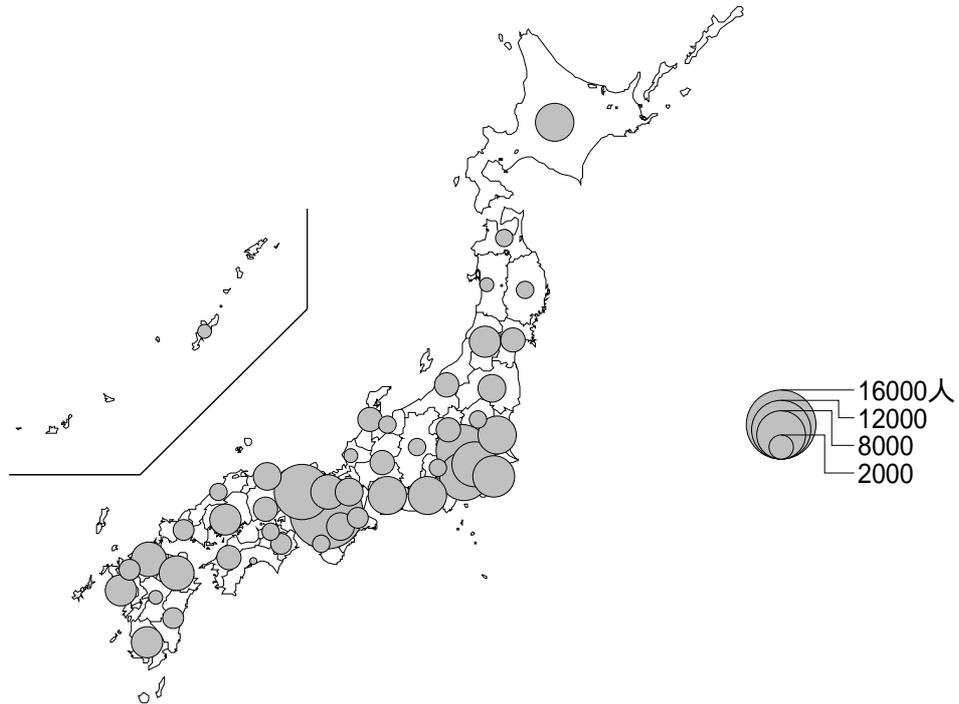
旅行先(延べ数)は、38 ヶ国・地域に 1,309 校 168,495 人が訪問した。方面別にはオーストラリアが 236 校 34,454 人(公立 64 校 9,993 人、私立 172 校 24,461 人)と前年度に引き続き最も多い。ニュージーランド、ニューカレドニアの 47 校 6,547 人を加えると、オセアニアで 283 校(全体比 21.6%)、41,001 人(同 24.3%)であった。

ついで、東南アジアの 280 校(同 21.4%)、38,927 人(同 23.1%)、北アメリカの 255 校(同 19.5%)、32,672 人(同 19.4%)、韓国 184 校(同 14.1%)、23,197 人(同 13.8%)であった。

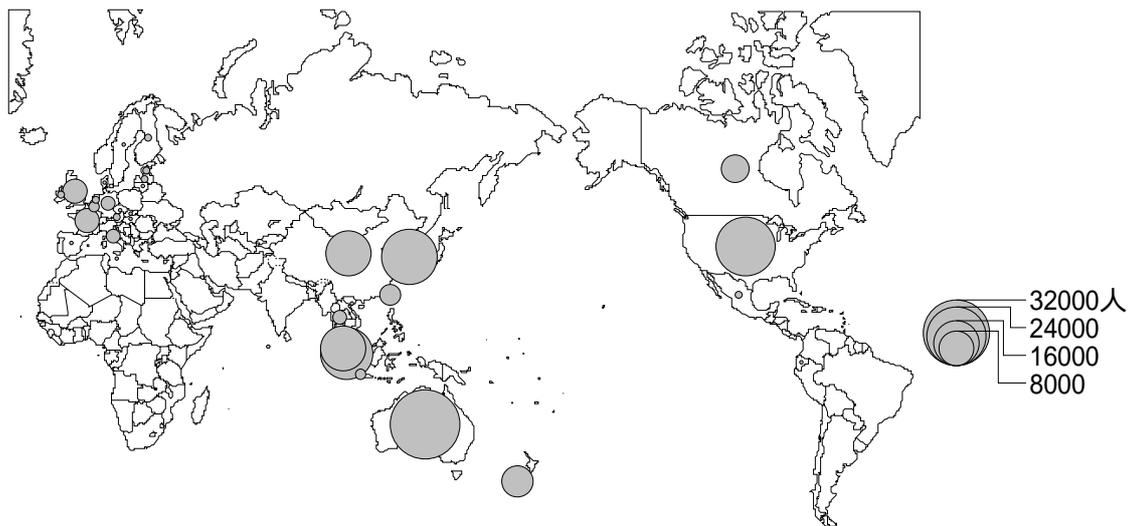
ヨーロッパ方面は 21 ヶ国にわたり 155 校(同 11.8%)、14,645 人(8.7%)が訪問。とくに北欧・バルト 3 国へは、校数は少ないながら参加人数の増加が顕著であった。



2006年海外修学旅行 参加人数(出国数)

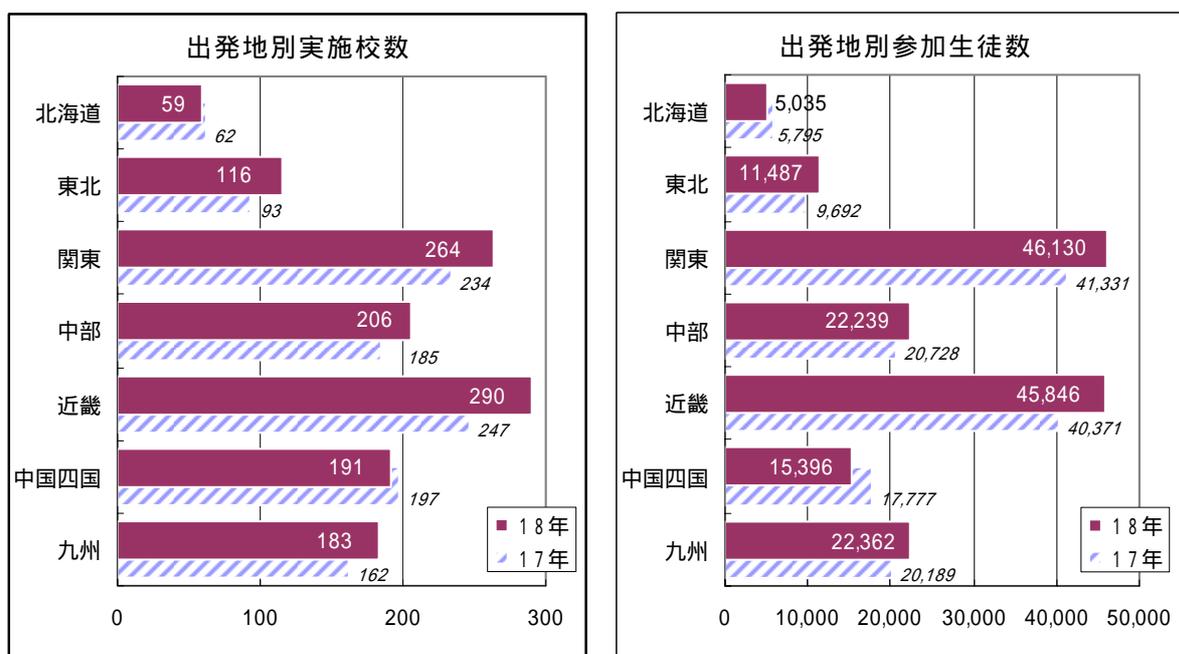


2006年海外修学旅行 旅行先別人数(延べ数)



## (2) 都道府県別の動向

- 実施校は、東北・関東・近畿・九州は増加、北海道・中国四国地方は微減。
  - ・実施校は、32 都道府県で増加、8 県で減少。公立では 25 都道府県で増加、5 府県で減少。私立では 24 都府県で増加、11 県で減少。
  - ・茨城県公立は 17 年度から海外実施が許可となり 6 校が実施した。唯一未許可となっていた埼玉県は 19 年度から試行を行うこととなっている。

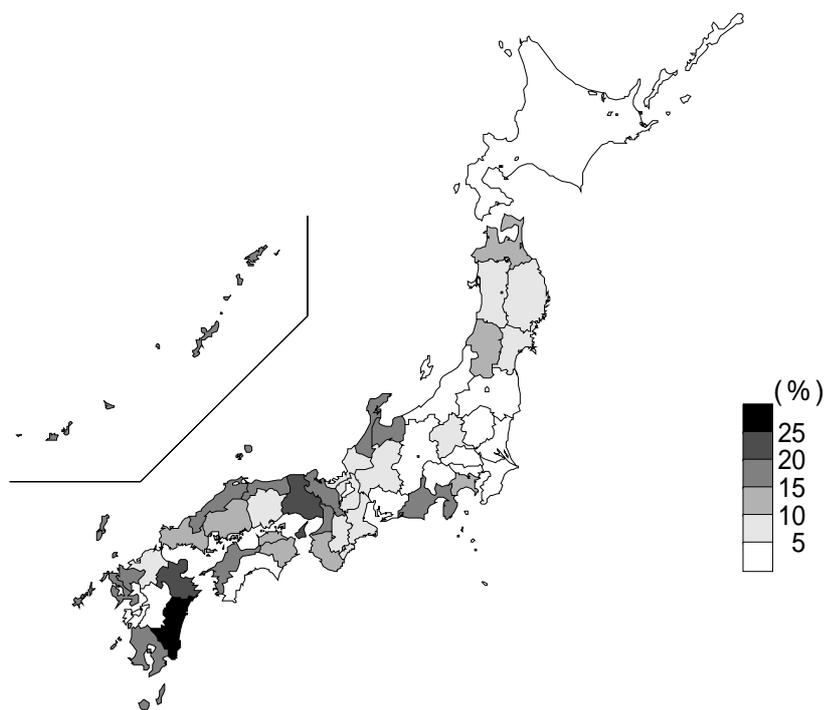


## (3) 全国高等学校の概要

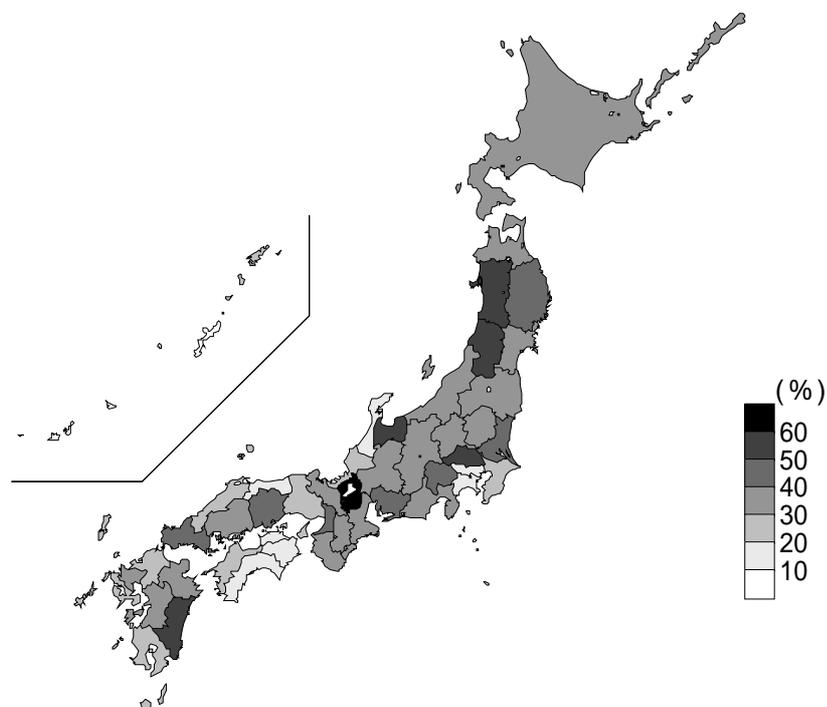
- 学校数は 5,385 校（本校 5,272 校、分校 113 校）で、前年度より 33 校減少している。
  - ・公立の学校数は 4,045 校で、前年度より 37 校減少している。
  - ・私立の学校数は 1,325 校で、前年度より 4 校増加している。
- 生徒数は 349 万 5 千人で前年度より 11 万 1 千人減少している。
  - ・修学旅行対象学年(全日制 2 年・定時制年・専科)の生徒数は、122 万 4 百人で前年度より 6 万人減少している。
  - ・公立の生徒数は 4 万 1 千人の減少、私立は 1 万 9 千人の減少となっている。

(資料：平成 18 年度文部科学省学校基本調査)

2002年 - 2006年 公立高校 年平均実施率



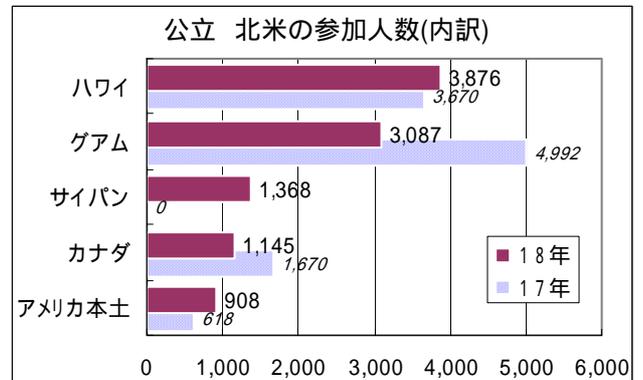
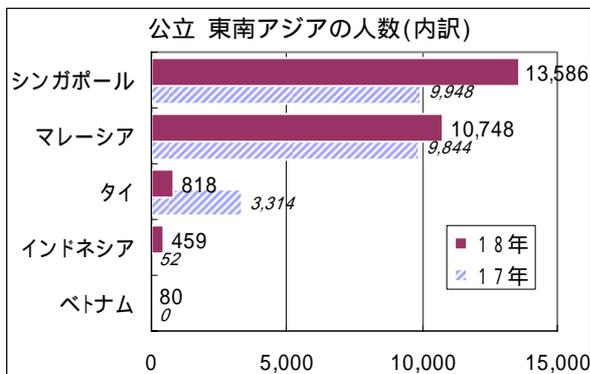
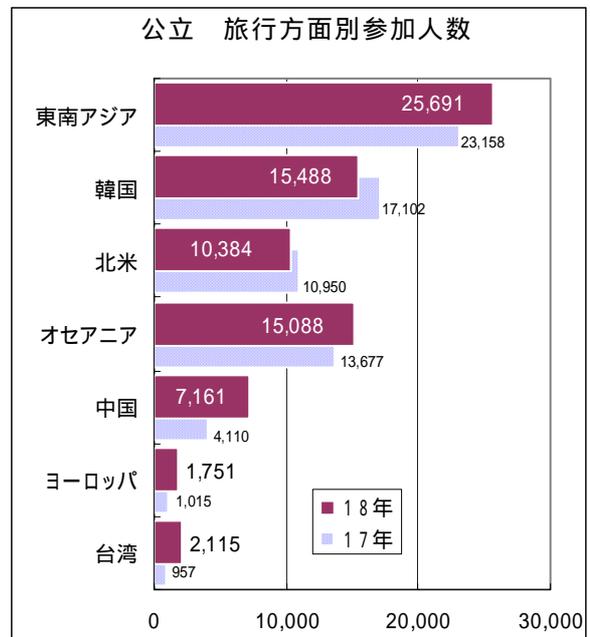
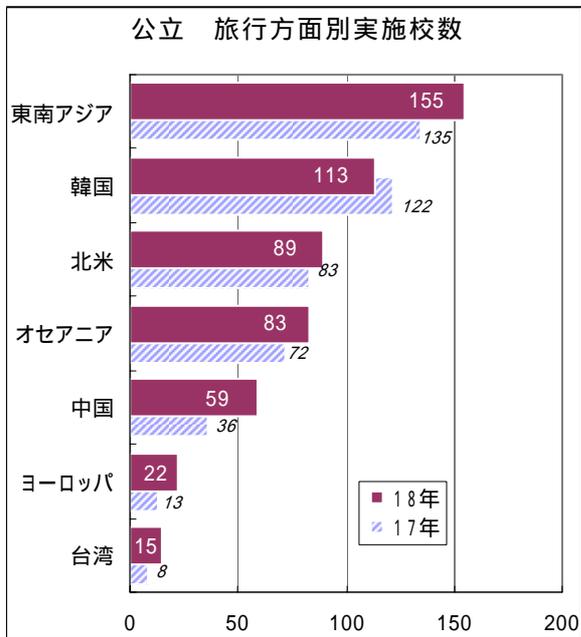
2002年 - 2006年 私立高校 年平均実施率



(4) 公私立別の状況

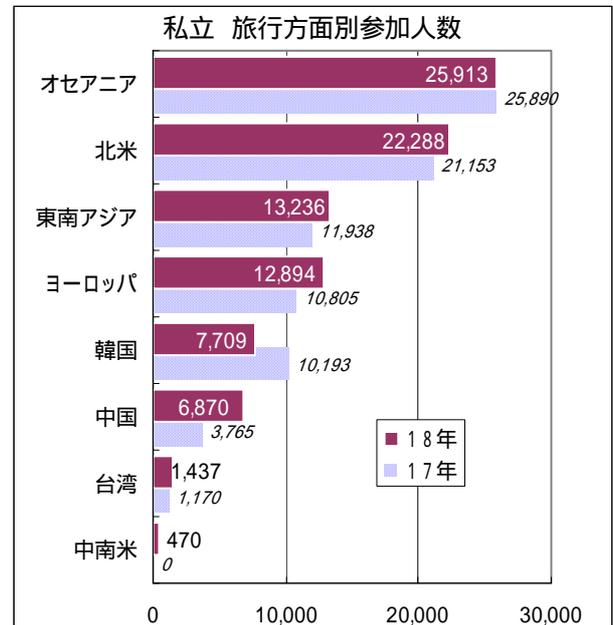
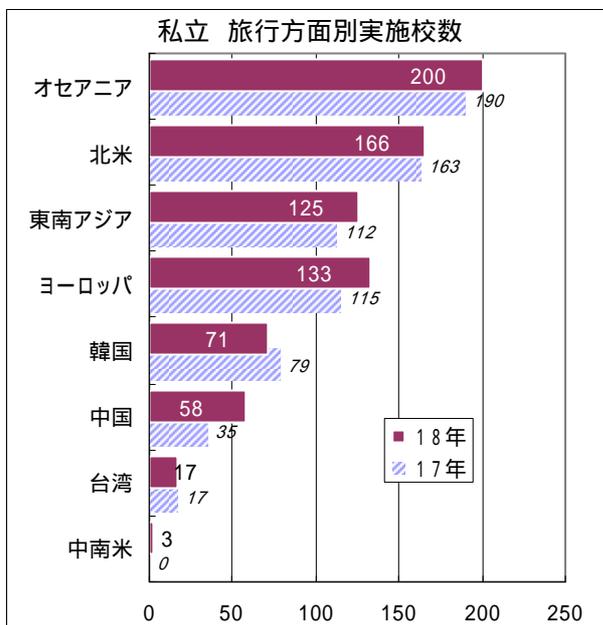
公立高等学校

- ・454校 67,714人が参加、旅行実施件数は477件であった。
- ・実施率からみると、鳥取県が54%も最も高い。ついで愛媛県32.8%、兵庫県25.3%、静岡県22.9%、大分県22.8%、大阪府20.6%と西日本地方が高い。
- ・旅行先(延べ数)は、21ヶ国・地域に536校 77,678人が訪問している。方面別には東南アジアが155校(全体比28.9%)25,691人(全体比33.1%)、韓国113校(同21.1%)15,488人(19.9%)と近隣諸国が多く過半数を占める。次いで北米(ハワイ・グアム等含む)の89校(同16.6%)10,384人(同13.4%)、オセアニア83校(同15.5%)15,088人(同19.4%)となっている。
- ・海外修学旅行実施校のうち102校が国内との選択性を採用している。



### 私立高等学校

- ・479校 80,807人が参加、旅行実施件数は679件であった。
- ・実施率は滋賀県が77.8%と最も高い。ついで山形・富山・奈良・宮崎の各県がいずれも66.7%、秋田・山口県60%、岩手・茨城・群馬・埼玉・山梨・新潟・愛知・岡山・佐賀の各県が50%台をしめしている。
- ・旅行先(延べ数)は、35ヶ国・地域に773校 90,817人が訪問している。方面別ではオセアニアが200校(全体比の25.9%)25,913人(同28.5%)、北米(ハワイ・グアム等含む)166校(同21.5%)22,288人(同24.5%)が多い。ついでヨーロッパ133校(同17.2%)12,894人(14.2%)、東南アジア125校(同16.2%)13,236人(14.6%)で、この4方面で全体の80%を占めている。



### (5) 公私立中学校の状況(参考)

中学校での海外修学旅行は私立学校を主として公立学校でも一部府県での実施がみうけられ、参考資料として掲載した。

平成18年度は、111校 8,475人(公立20校 1,631人、私立91校 6,844人)の実施があった。

公立中学校は西日本・九州地方の学校が多く、特に福岡県が多い。

旅行方面は、韓国(15校 1,352人、校数比75%)が多い。旅行日数・費用は、韓国3~4日間・3万円~5万円台、シンガポール方面4~5日間・9万円台、オセアニア5~7日間20万円台となっている。オセアニア方面の旅行では自治体の費用負担がある

私立中学校は、オセアニア(33校 2,667人)が全校数の35.5%と最も多い。ついで北アメリカ(24校 1,858人、校数比25.8%)、ヨーロッパ(19校 1,056人、校数比20.4%)と英語圏が多い。前年度と大きな相違はない。

## 2. 平成 18 年度海外研修の実施状況

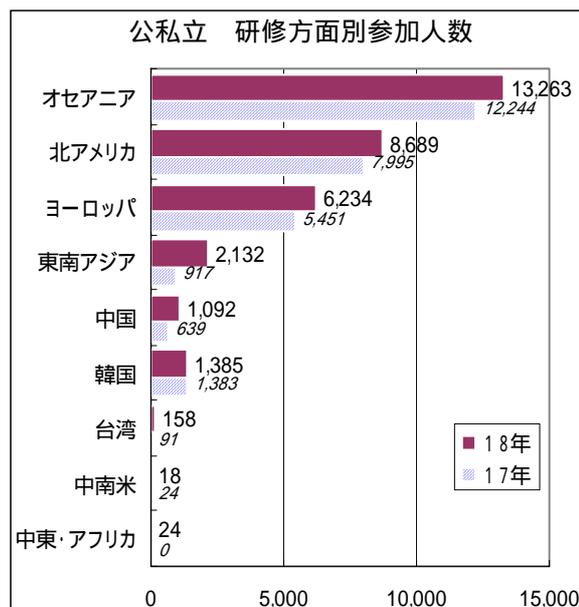
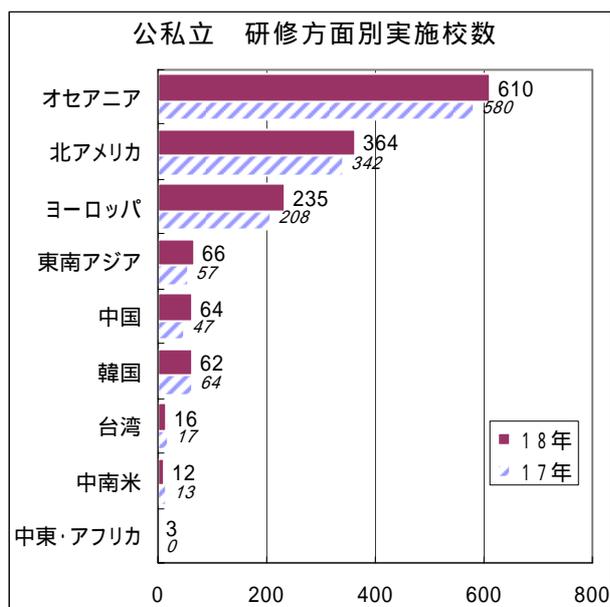
1,047 校(公立 510 校、私立 537 校)が実施し、参加生徒数は 31,666 人(公立 12,269 人、私立 19,397 人)であった。実施件数は 1,366 件(公立 570 件、私立 796 件)にのぼる。

17 年度に比べ実施校数(対前年 104.4%)・件数(同 107.8%)、参加人数(同 114.4%)とも増加している。

研修先(延べ数)は、48 ヶ国・地域に 1,432 校 32,995 人が参加した。語学研修を中心とした内容から英語圏が多く、オセアニアが 610 校(全体比 42.6%)、13,263 人(全体比 40.2%)で公私立とも最も多い。次いでアメリカ・カナダを主とした北アメリカ 364 校(同 25.4%)、8,689 人(同 26.3%)、ヨーロッパ 235 校(同 16.4%)、6,234 人(同 18.9%)となっている。

研修内容は、ホームステイ・語学研修が 982 校 23,896 人で実施総数の 69%と最も多く、公立では全件数の 57.8%、私立で 76.9%となっている。

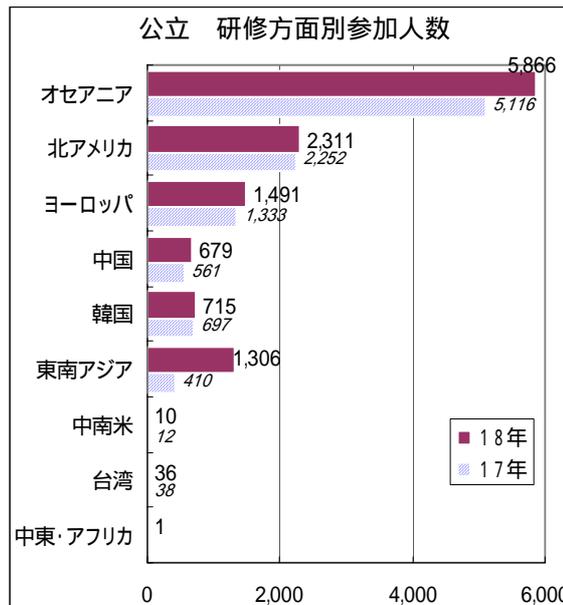
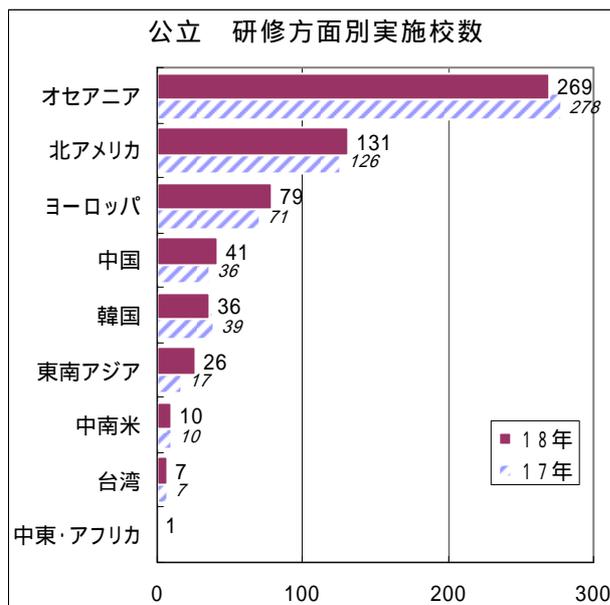
学科の特性として、公立では農業実習・研修、社会福祉施設訪問・研修・ボランティア、音楽レッスン、美術・ホテル研修等、私立では環境教育研修、調理実習、美術・服飾研修、福祉先進国視察研修等が行われている。



### (1) 公立高等学校

510 校(570 件)が実施し、参加生徒数は 12,269 人であった。公立高校では、複数校が同一研修に参加している事例が多い。

研修先(延べ数)は、34 ヶ国・地域に 600 校 12,415 人が参加した。研修方面別では、前年度と同様オセアニアが最も多く 269 校(全体比 44.8%)、5,866 人(全体比 47.2%)の実施があった。前年度と比べ実施校数は減少しているが参加人数は増加している。ついで北アメリカ 131 校(同 21.8%)、2,311 人(同 18.6%)、ヨーロッパ 79 校(同 13.2%)、1,491 人(同 12.0%)が多い。研修内容は、ホームステイ・語学研修が 344 校(全体比 57.7%)、7,883 人(全体比 63.7%)が圧倒的に多い。国際交流・国際理解研修の 87 校(同 14.6%)、1,954 人(同 15.8%)は前年度から減少。学校間交流が 83 校 1,411 人と前年と比べ校数・人数とも増加している。

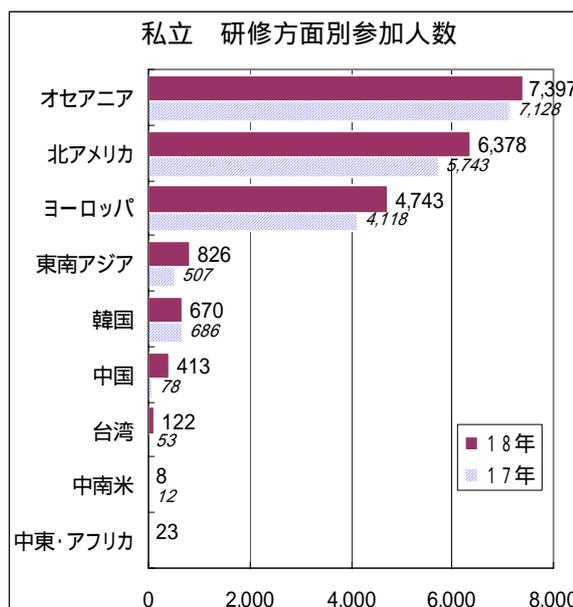
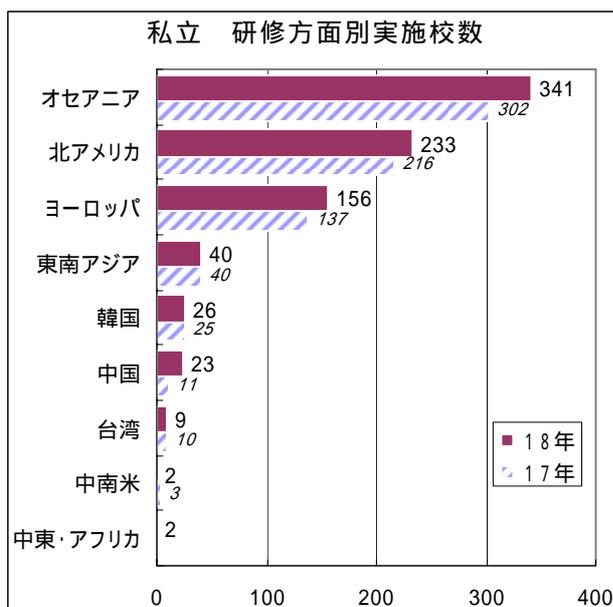


## (2) 私立高等学校

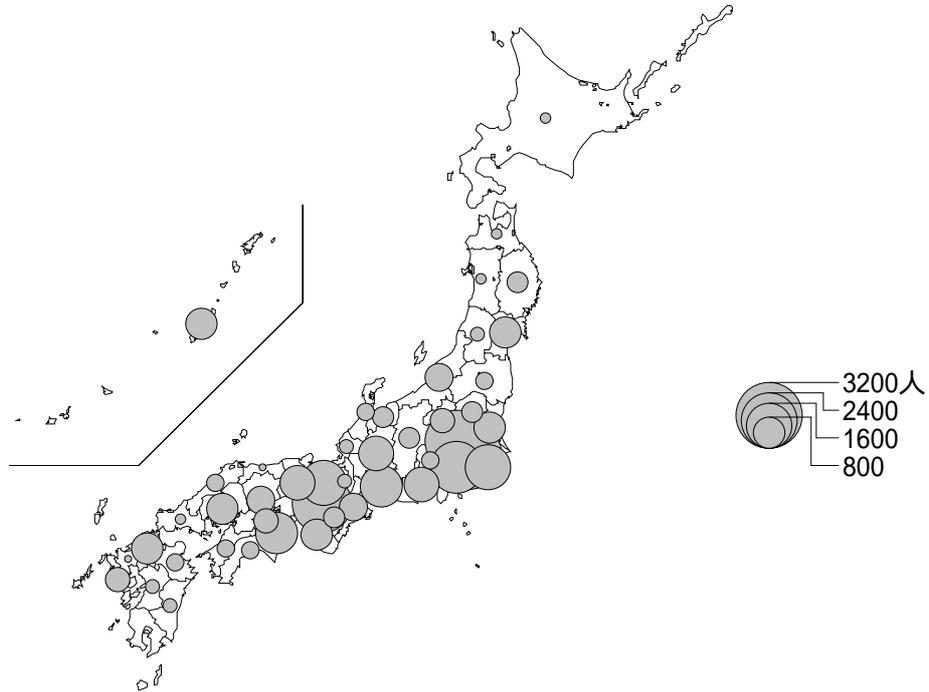
537校(796件)が実施し、参加生徒数は19,397人であった。

研修先(延べ数)は、39ヶ国・地域に832校20,580人が参加した。研修方面別では、オセアニアが341校(全体比41.0%)、7,397人(全体比35.9%)と最も多く、北アメリカの233校(同28.0%)、6,378人(同31.0%)、ヨーロッパ156校(同18.8%)、4,743人(同23.0%)と前年度と変化はない。

研修内容は、ホームステイ・語学研修が77%と圧倒的に多い。次いで国際交流・国際理解を目的とした研修が10.3%となっている。



2006年海外研修参加人数(出国数)



2006年海外研修 研修先別人数(延べ数)

